

保育の描画実践における保育者の指導論()

平沼 博将
(京都大学教育学研究科)

目 的

本研究では、保育者が描画実践に関してもっている指導論について、それを構成している尺度について調べ、それぞれの尺度に関わる要因を検討することを目的とする。

方 法

調査対象：京都市内の民営保育園の保育者75名。調査対象者には、所属園名、年齢、保育経験年数、担任クラス年齢、回答に際して想定したクラス年齢を記入してもらった。
質問項目：描画実践や描画指導に対する考え方、行動を問うものであり、これまでの描画指導をめぐる議論を考慮して著者自身が作成した。調査対象者には、自身の考えが架空の保育者であるAさん、Bさんのどちらにより近いかを6件法で評定してもらった。

結 果

1. 描画指導論を構成する尺度について(因子分析の結果から)

描画実践に関する50項目の因子分析から、描画指導を積極的に行うかどうかを測る「**積極指導 - 消極指導**」型尺度、描画実践を得意としているかを測定する「**実践得意 - 実践苦手**」型尺度、子どもの描画に対して評価を積極的に行うかどうかの「**積極評価 - 消極評価**」型尺度、描画実践や子どもの描画について保育者同士や保護者とコミュニケーションを多くとっているかを測る「**密交流 - 疎交流**」型尺度、描画実践を行う際、保育者の保育目標を重視するか、子どもの活動にあわせるのかを測る「**子ども主導 - 保育者主導**」型尺度、描画指導のうち技術的な指導を重視するかどうかの「**技術指導不要 - 技術指導必要**」型尺度、描画実践を行う際、設定環境で行うことが多いか、自由環境で行うことが多いかを測定する「**自由環境 - 設定環境**」型尺度の7尺度が抽出された。

2. 描画指導論に関わる要因について(分散分析の結果から)

描画指導論に関わる要因を検討するため、調査対象者を保育経験年数から3群、クラス年齢から2群に分け、群ごとに各尺度得点の平均を算出した(Table 1)。

分析の結果、保育経験の要因については、若手群よりも中堅、ベテラン群の方が指導により積極的であり($F(2,70)=6.17, p<.01$)、若手群に比べベテラン群の方が職員同士や、保護者とのコミュニケーションが密であり($F(2,70)=3.91, p<.05$)、ベテラン群は中堅群よりも、技術指導に関してその必要性を感じている($F(2,70)=3.67, p<.05$)ことが分かった。また、クラス年齢の要因については、0~2歳児クラスよりも3~5歳児クラスの保育者の方が、技術指導の必要性を強く感じている($F(1,73)=4.67, p<.05$)こと、0~2歳児クラスでは、子どもが主導で、設定環境での描画活動が多く、逆に3~5歳児クラスでは、保育者主導で、自由環境での描画活動が多くなる($F(1,73)=18.74, p<.01$ / $F(1,72)=17.02, p<.01$)ことが示された。

Table 1 各尺度得点の保育経験別、クラス年齢別、全体の平均と標準偏差

尺度名	保 育 経 験			ク ラ ス 年 齢		全 体 (N=75)
	若手群 (N=20)	中堅群 (N=22)	ベテラン群 (N=31)	0~2歳児 群(N=35)	3~5歳児 群(N=40)	
積極指導 - 消極指導型	3.61(1.02)	4.32(0.84)	4.48(0.81)	4.09(1.05)	4.29(0.81)	4.20(0.93)
実践得意 - 実践苦手型	2.69(0.77)	2.35(0.75)	2.83(0.83)	2.82(0.70)	2.49(0.81)	2.64(0.80)
積極評価 - 消極評価型	5.03(0.80)	5.30(0.78)	5.37(0.76)	5.16(0.87)	5.34(0.67)	5.25(0.77)
密交流 - 疎交流型	4.75(0.73)	5.00(0.87)	5.32(0.60)	5.00(0.71)	5.15(0.79)	5.07(0.76)
子ども主導 - 保育者主導型	4.17(0.81)	3.77(0.88)	3.98(1.00)	4.40(0.88)	3.59(0.75)	3.97(0.90)
技術指導不要 - 技術指導必要型	3.38(0.78)	3.57(1.28)	2.82(1.01)	3.47(0.83)	2.95(1.20)	3.19(1.07)
自由環境 - 設定環境型	3.08(1.73)	4.16(1.32)	3.73(1.63)	2.96(1.45)	4.34(1.42)	3.70(1.59)